

本研究は、韓国と日本における都市型集合住宅の居住様式（住まい方）を比較することによって、両国の居住様式の住意識・価値観を明らかにした。居住様式における住意識、価値観に対しては、アンケート調査を行い、統計解析（デマテル分析及び因子分析）によって分析し評価した。韓国では住居環境、位置、将来性などを日本では価格、位置、将来性などが重視される傾向が顕著である。とりわけ居住空間で重要視するのは、韓国が応接室、日本が収納を上げている。居住空間の構成の好みをみると、両国ともに「韓・洋風」「和・洋風」のほうを望んでいる。因子分析では、韓国は、文化志向型、活動志向型、経済志向型、快適志向型の4つのメンタルモデルとして上げることができる。日本は、経済志向型、安全定志向型、快適志向型、文化志向型、活動志向型に5つのメンタルモデルに分けることができた。

### I. 研究の背景及び目的

韓国の居住、特に伝統的民家についての研究は、勿論、韓国でも、日本でも盛んである（朱南哲、1981；申榮勲、1986；張保雄、1988）。しかし、韓国と日本における現代住居、特に、都市型集合住宅の居住様式（住まい方）に関する両国の比較研究は非常に少ない（鈴木成文、1988）。

韓国は1970年代以来、高度経済成長と共に大都市への人口集中（ソウルへの人口集中は全人口の約25%）に伴い居住様式が日本を上回るスピードで変化しつつある。日本に比べてその変化の歴史は浅いが、現在ソウルを始めとする地方大都市を中心とした都市型集合住宅は、都市圏では国民住宅ともいえるようになってきている。韓国と日本における都市型集合住宅は、在来の住宅型から大きく変身した新し居住様式であると共に、一方では従来の生活様式を受け継いだ両国共通の二面性がある（SEOUL METROPOLITAN GOVERNMENT, 1989、韓国住宅事業協会、1991）。

日本では、高度経済成長期には都市への人口集中が生じ、現在三大都市圏の人口が40%以上を越え（東京への人口集中度は全人口の約15%）ている。都市を生活領域とする人々の生活は、今日、日本の生活を先導するまでになっている。このような社会変動により合理的な居住空間と新しい生活様式を求めて従来の民家より洋風化し

た都市型集合住宅が急増した。（太田博太郎、1984；清田育男、1987；日本建築学会編、1989；佐藤滋、1989；神田駿、1990）。

韓国と日本は東アジア文化圏に属し大陸からの文化の伝播という共通点（李杜弦、1974；秋岡芳夫、1977；金正基、1982；杉本尚次編、1984）を持つ一方、自然環境では、地震の有無などの地質的条件の差、気温、降水量、風、湿度などの気候的環境の差（高橋浩一郎、1986）を上げることができる。また、人文環境では、宗教、社会制度、風習からくる居住の規模や間取り、空間構成要素の差などの相違点も大きい（東孝光、1981；金光鉉、1991）。

本研究では、韓国と日本における都市型集合住宅の居住様式（住まい方）を住意識の面から比較考察することによって、住居様式に対する住意識及び価値観を明らかにすることを目的とした。

### II. 研究の方法及び対象

人々の都市型集合住宅における住意識、価値観に関しては、アンケート調査を行った。調査票は、直接配布回収し、期間は、いずれも60日間で行った。被験者は、韓国（ソウル）で70名。日本（東京、つくば）で70名。合計140名を対象とした。それらを統計解析（単純集計、デマテル分析、因子分析など）によって分析し思考評価した。

用意した質問は3つの意図によって、構成した。これら3つの事項に対する仮説を立て、事例調査研究により検証を行った。本事例研究の仮説としては、

- 1) 都市型集合住宅の居住様式（住まい方）に対する分析評価は、被験者の性別、年齢、居住場所などによって異なる。
- 2) 都市型集合住宅の居住様式（住まい方）の構成は、個人個人のおかれている社会文化的背景の差によって異なる。
- 3) 都市型集合住宅の居住様式（住まい方）と住環境の諸設備との要求度との相関関係は、社会文化的側面から究明することが可能である。

以上の3つの仮説を立証するためには、韓国と日本の人々を対象に居住意識を調査することにより意識構造の

相異点を読みとれるものと考えた。そのため、人々の都市集合住宅の居住様式（住まい方）に対する意識を分析的な評価として説明できる質問事項を用意した。

1) 人々の都市型集合住宅の居住様式（住まい方）に対する評価基準。

2) 韓国と日本における都市型集合住宅の居住様式（住まい方）構成の相異点。

3) 都市型集合住宅の居住様式（住まい方）と住環境の諸設備と人々の相関関係。

はじめにKJマップの内容を「居住様式の価値観に関する項目」と、「居住様式の評価の相異点に関する項目」、「居住洋式との住環境の諸設備と人々の相関関係に関する項目」に分類し、さらに「居住洋式」の中でも都市型集合住宅ではないと思われるものを除き、都市型集合住宅において考えられる居住様式の中から質問の11項目を選びそれぞれについて“非常にそう思う”～“全くそう思わない”などの5段階の評価。“非常にそう思う”～“どちらともいえない”などの7段階で評価してもらった。（表 1-1）～（表 1-6）。

選択順	項目	例
A. ( )	環境	周囲環境, デパート, 学校など
B. ( )	位置	地理的条件, 駅との距離, 通勤時間
C. ( )	部屋の数	2LDK, 3LDKなど
D. ( )	階数	1階, 2階 ……
E. ( )	面積	広さなど
F. ( )	日照	住戸の向き
G. ( )	設備	室内装飾, インテリア
H. ( )	信頼性	建設会社名など
I. ( )	価格	適当な価格
J. ( )	将来性	地域, 環境等の発展の見込みがある

表 1-2 調査表

Q5. 今日の都市型集合住宅（包括的な概念）について、あなたのイメージをおうかがいします。

次の項目につき、あなたのお感じになった通り、1つ選んで0をつけてください。

ひじょうに  
かなり  
やや  
どちらとも  
言えない  
やや  
かなり  
ひじょうに

表 1-1 調査表

□都市型集合住宅の住居空間（住まい方）についておうかがいします。

次の項目について、お答え下さい。

Q1. 性別 男( ) 女( )

年 齢	職 業
① 20才未満 ( )	① 学 生 ( )
② 20～29才 ( )	② 会 社 員 ( )
③ 30～39才 ( )	③ 公 務 員 ( )
④ 40～49才 ( )	④ 自 由 業 ( )
⑤ 50～59才 ( )	⑤ 主 婦 ( )
⑥ 60才以上 ( )	⑥ そ の 他 ( )

Q3. あなたが現在住んでいる所について、お答え下さい。

① アパート ( )	④ コーポ、ハイツ ( )
② 宿舎 ( )	⑤ マンション ( )
③ 借家（一戸建） ( )	⑥ 持家（一戸建） ( )

Q4. もし、あなたが、都市型集合住宅を購入するならば、どんなところを重要視しますか。  
重要視する要素を3つだけ選んで選択順に①～③までご記入して下さい。

- ① 変化のある  変化のない
- ② 現代的  古い
- ③ 広い  狭い
- ④ 永久的  非永久的
- ⑤ 自由な  束縛された
- ⑥ 開放感  閉鎖感
- ⑦ 多色  単色
- ⑧ 楽しい  さびしい
- ⑨ 美しい  汚い
- ⑩ 暖かい  冷たい
- ⑪ 静的な  動的な
- ⑫ 便利な  不便な
- ⑬ 安心  不安

表1-3 調査表

Q6. 住居空間（住まい方）のなかで、次の項目につき、あなたが重要視する比重はどのぐらいですか。  
ご自分の考えに最も近いことを一つ選んで0をつけてください。

全く重要ではない。  
あまり重要ではない。  
どちらとも言えない。  
やや重要。  
非常に重要。

A. 玄関					
B. 応接室					
C. Kitchen（台所）					
D. dining room（食堂）					
E. bed room（寝室）					
F. bath room（お風呂）					
G. toilet（化粧室）					
H. 照明関係					
I. 収納スペース					
J. 窓など					

表1-4 調査表

Q7. 都市型集合住宅における、和室（畳の部屋）の存在について、おうかがいします。  
ご自分の考えに最も近いことを一つ選んで0をつけて下さい。  
現代においても和室（畳の部屋）は、

①非常に必要	( )
②やや必要	( )
③どちらとも言えない	( )
④あまり必要ではない	( )
⑤全く必要ではない	( )

Q8. あなたがもし、都市型集合住宅に居住するとすれば、住居空間（住まい方）をどんなふう構成しますか。  
ご自分の考えに最も近いものを一つ選んで0をつけてください。

①和風	( )
②洋風	( )
③和・洋風混合	( )

Q9. 下の中から自分が重要視する項目について、全てに0をつけてください。

①モダンな感覚と個性的な雰囲気 … ( )
②昔の伝統的な雰囲気 …………… ( )
③落ち着いた安定感 …………… ( )
④プライバシーを守る …………… ( )
⑤ゆったりした間取り …………… ( )
⑥家族のくつろぎ、だんらんの場所… ( )
⑦椅子の使用有無 …………… ( )
⑧高級な雰囲気 …………… ( )
⑨機能的、活動的な雰囲気 …………… ( )
⑩家具の配置 …………… ( )

表1-5 調査表

Q10. 都市型集合住宅における、住居環境及び住居空間について要求度をおうかがいします。  
ご自分の考えに最も近いものを一つ選んで0をつけて下さい。

全く要求ではない  
あまり要求ではない  
どちらとも言えない  
やや要求  
非常に要求

①居住空間の広さ					
②近所との交友・つき合い					
③日常の買物などの便利さ					
④設備など					
⑤交通の便					
⑥防犯の現況					
⑦家賃					
⑧駐車場					
⑨文化的環境					
⑩公園などの緑					
⑪暮らし全般についての要求度					

表1-6 調査表

Q11. 都市型集合住宅における、居住空間の設備などについて、おうかがいします。

ご自分の考えに最も近いもの一つを選んで0をつけて下さい。

非常にそう思う。  
 ややそう思う。  
 あまりそう思わない。  
 全くそう思わない。

①間取り、設備などが  
初めから設置されている。

②使用者と相談して  
設備などを設置する。

③初めから使用者が設備  
などを自由に計画する。

### III. アンケートの内容と解析の結果

#### III-1. 被験者の属性

図1は被験者の属性を表したものである。

性別は、韓国が男性54%、女性46%。日本が男性55%、女性45%の割合である。

年代は、20-29才代が多く、韓国が48名(68%)、日本が45名(65%)である。

職業は、学生が多く、韓国が55名(79%)、日本が65名(93%)である。

住まいは、アパートが多く、韓国が24名(34%)、日本が70名(46%)である。

表6-7 被験者の属性

性別	韓国 (70人)	男性 (54%)	女性 (46%)
	日本 (70人)	男性 (55%)	女性 (45%)
年齢	韓国 (70人)	20~29才 (68%)	30~39才 (20%) 40~49才 (6%) 50~59才 (6%)
	日本 (70人)	20~29才 (65%)	20才未満 (21%) 30~39才 (13%)
職業	韓国 (70人)	学生 (79%)	その他 (21%) 7% 7% 6%
	日本 (70人)	学生 (93%)	その他 (7%) 3% 3%
住まい	韓国 (70人)	アパート (34%)	持家(一戸建) (30%) 借家 (16%) その他 (9%) 9% 7% 4%
	日本 (70人)	アパート (46%)	宿舍 (27%) コーポ (14%) その他 (15%) 5% 6%

図1 被験者の構成のデモグラフィックデータ

#### III-2. 都市型集合住宅に対する選択優先項目

図2と図3は、都市集合住宅の購入の際の、都市集合住宅の価格、住居環境及び平面構造の各要素について被験者が重要視する要素をまとめたものである。住まいに対する人々の意識を優先順という評価方法で収集し、選定評価としてデータ化した。方法としては、都市集合住宅の購入について被験者が重要視と思われる要素10項目その中で三つだけを選んで選択順に①②③を記入してもらった方法をとった。さらに、この質問の各要素の優先順を都市集合住宅の購入に対する評価得点とし、分析をした。従って優先順位がもつ意味は、住まいの評価対象がどのような要素と構造を成しているかを調べることになる。選択優先項目の得点の結果については、都市型集合住宅に対する1位から3位までをそれぞれ順位で表し、各要素の得点を計算して平均値を比較した。それらを上位(1-3位)のグループ、中位(4-6位)のグループ、下位(7-10位)のグループに分けた。

例]	順位	得点
1	.....	3
2	.....	2
3	.....	1

上位(1、2、3位)のグループは、

韓国 (70人)	日本 (70人)
1位 環境(平均 1.60)	1位 価格(平均 1.40)
2位 位置(平均 1.46)	2位 位置(平均 1.31)
3位 将来性(平均 0.70)	3位 環境(平均 1.26)
3位 信頼性(平均 0.70)	

中位(4、5、6位)のグループは、

韓国 (70人)	日本 (70人)
5位 価格(平均 1.60)	4位 面積(平均 0.57)
6位 面積(平均 0.46)	5位 部屋数(平均 0.54)
6位 日照(平均 0.31)	

下位(7、8、9、10位)のグループは、

韓国 (70人)	日本 (70人)
7位 設備(平均 0.19)	7位 設備(平均 0.30)
8位 部屋数(平均 0.17)	8位 信頼性(平均 0.11)
9位 日照(平均 0.09)	9位 将来性(平均 0.11)
10位 階数(平均 0.04)	10位 階数(平均 0.09)

となった。

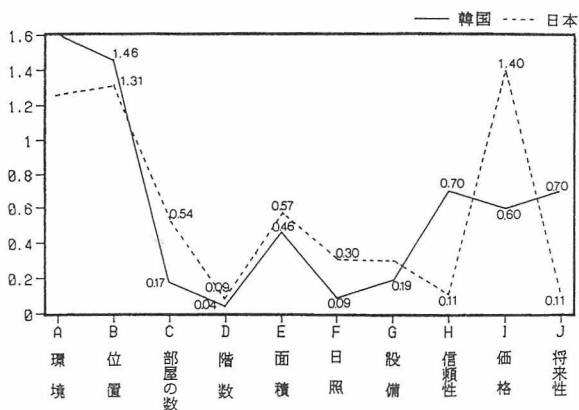


図2 都市型集合住宅に対する韓国と日本の選択優先項目の比較

都市型集合住宅を被験者が選択する時に、韓国では、住居環境、位置、将来性、信頼性が面積より重視されていることがわかる。また、日本では、価格、位置、環境が重視されていることが分かった。優先順に関する都市型集合住宅の選択要素の評価がどのような影響から成り立っているかを調べる方法としてデマテル分析を用いた。ここでデマテル分析を用いる理由は、都市型集合住宅の要素を順序でつけて選択するときの系列的な規則を構造

都市型集合住宅に関するデマテル分析のフローチャートを図4に示す。

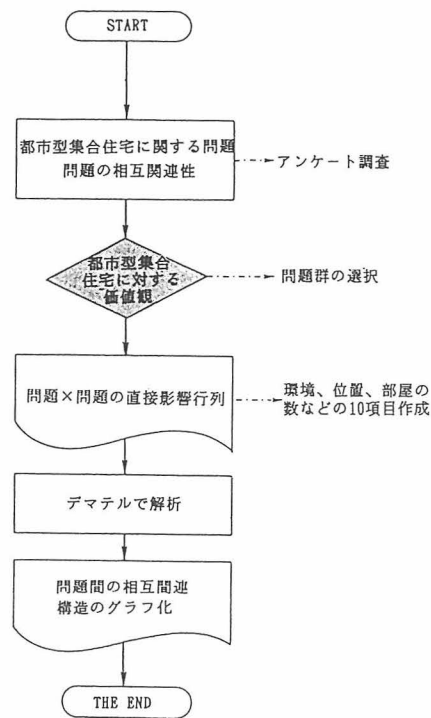


図4 デマテル分析のフローチャート

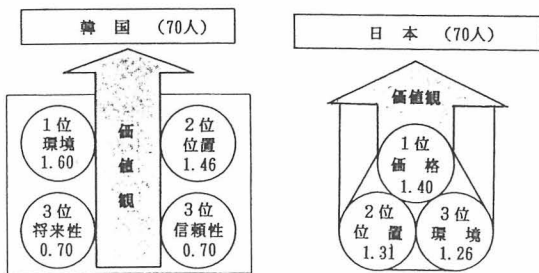


図3 都市型集合住宅に対する選択優先項目

以上の分析から得られる結果をみると、韓国では都市型集合住宅を購入するときに、重要視する要素は、環境(1.00)と位置(1.00)が一番影響度が大きいことが分かるそのことを表2と図5に示している。また、日本の場合は、価格(1.00)が一番影響度が大きく、韓国における価格の影響度(0.38)に比べて非常に異なる様相を示す表3と図6に示している。

### III-3. 都市型集合住宅に対するイメージ

個人の抱くイメージの各層に対応してそれに直接働きかける個々の生活経験、社会・文化的深層ないし普遍的問題、人類的・宇宙的・形而上的問題をわれわれは仮定することができる。社会文化的現実そのものの問題は、単にある個人のイメージ形成因としてだけではなく、かなりの程度文化として公共的にイメージを成立させているものでもある。文化がパーソナリティをつくり、パーソナリティが文化を担い永続させるというパーソナリティに対して、文化はルールを与える。文化は良い価値を設定して、人を積極的にそれを追求させる。文化は共通の型を示すことによって、パーソナリティを生ぜしめるのである(水島恵一 編、1989)。

化することができるからである。

デマテル分析 (DEMATEL; DEcision Making Trial & Evaluation Laboratory) は、スイスのバテル研究所が世界的複合問題を分析する手法として開発したものである。この分析は、複合な問題を整理して本質的な部分を抽出するには、問題をマクロなサブ問題 (構成要素) に分解して、総合関連の有無をグラフで図すれば、全体的な構造を直観的に理解することができるからである。(柳井晴夫 他、1977; 田中豊 他、1983)。

このように、イメージには個人主義の特徴が現れると  
考えられる。人々の都市型集合住宅に対するメンタル・  
モデルを検討することにより集合住宅に対する思考評価  
の概念を知ること画可能である。方法としては各項目に  
対する7段階の答えを評価得点（1～7）として、分析  
をする。都市型集合住宅において考えられるイメージか  
ら質問の13項目を選びそれぞれについて“非常にそう思  
う”～“どちらとも言えない”などの7段階で評価して  
もらった。したがって、人々の意識の中の都市型集合住宅  
に対するイメージの選好度を調べることになる。

図7は、都市型集合住宅のイメージの評価基準及び  
評価平均値図を示したものである。

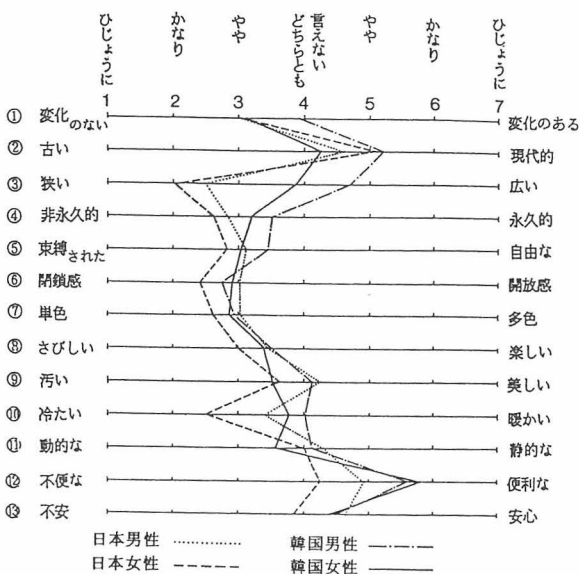


図7 都市型集合住宅のイメージの評定尺度および評定平均値図

都市型集合住宅に対する韓国と日本のイメージにおい  
て、韓国は、1位に便利（平均 5.73）、2位、安心（平  
均 4.83）、3位、：現代的（平均 4.77）を上げているの  
に対し、日本は、1位に現代的（平均 4.84）、2位、便  
利（平均 4.66）、3位、安心（平均 4.27）、を上げてい  
る。

イメージで韓国と日本で順位が違うのは3項目（便利、  
安心、現代的）である。韓国と日本の大きな違いは、広  
さに対するイメージで、韓国が広い（平均 4.34；4  
位）、に対して、日本が狭い（平均 2.24；13位）を挙げ  
ている。

III-4. 都市型集合住宅の住居空間に対する意識構造  
居住様式（住まい方）の中で、重要視する要素を5段  
階の答えてもらい（“非常に重要” “やや重要” “どちらと  
もいえない” “あまり重要でない” “全く重要ではない”）  
の評価方法で収集し評価しデータ化した。方法としては  
居住様式について被験者が重要視すると思われる各要素  
について、答えをつけてもらい、この答えを住居空間（住  
まい方）に対する重要視する各要素を評価得点として分  
析をした。

例] 項目	得点
“非常に重要”	+2
“やや重要”	+1
“どちらともいえない”	0
“あまり重要ではない”	-1
“全く重要ではない”	-2

従って住まいの評価対象がどのような要素で、どのよ  
うな構造を成しているかを調べることになる。

住居様式（住まい方）に対する韓国と日本の住居空間  
意識において韓国の1位は、応接室（平均1.49）、2位  
は、キッチン（平均1.44）および風呂（平均1.44）を上  
げているのに対し、日本の、1位は、収納（平均1.53）、  
2位は、窓（平均1.51）、3位は、風呂（平均1.39）を上  
げている。日本で収納空間を重要視することに対して渡辺  
光雄（1989）は、“どこのお家でも住宅改善希望の一つ  
に、収納空間の拡大という要求が出される。その理由を  
たずねると、「モノがたまってくるんです」という返事  
で、ためるという自覚的行為でないことがわかる。た  
まってくることを許しているのが押入であるといえる。  
押入という融通無碍な空間が、モノがたまってくるとい  
う生活様式の免罪符の役割を果たしているわけである。  
もしも押入という収納空間がなければ、私たちはモノの  
管理、とくにいつまでも残しておくことに、もっと厳し  
い態度をとるようになるだろう。押入は、一度入れたら  
放し状態になってしまいやすいので、「残そう」と判断す  
るモノ以外は入れないくらいの決心をしないと、結果的  
に不便な空間になってしまうのである”と言っている。

現実的に、モノの量が増加する一方今日の暮らしでは、  
収納空間が必要不可欠であると考えられる。

韓国の1位に応接室が挙げられているのは、まず韓国  
人のお各様を大事にすることと、他人によく見せ  
るという意識が反映していると考えられる。

### III-5. 都市型集合住宅の住居空間の構成

都市型集合住宅の居住空間構成の好み（洋風、韓風、  
和風）を調べると両国共に洋風化した都市型集合住宅で  
ありながらも伝統的な部屋の一つくらいは残している。

表2 各項目における直接影響と間接影響の総和行列の手順 [韓国]

項目	環境	位置	部屋数	階数	面積	日照	設備	信頼性	価格	将来性
環境	0.44	0.40	0.38	0.37	0.22	0.20	0.16	0.14	0.03	0.03
位置	0.35	0.34	0.33	0.31	0.24	0.22	0.17	0.16	0.07	0.03
部屋数	0.15	0.10	0.09	0.07	0.06	0.06	0.06	0.03	0.01	0.01
階数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積	0.15	0.13	0.11	0.06	0.06	0.05	0.05	0.05	0.03	0.01
日照	0.08	0.08	0.05	0.04	0.04	0.03	0.02	0.02	0.02	0.01
設備	0.16	0.15	0.12	0.07	0.07	0.04	0.03	0.03	0.01	0.01
信頼性	0.32	0.27	0.17	0.14	0.11	0.10	0.09	0.03	0.02	0.01
価格	0.25	0.19	0.19	0.17	0.12	0.07	0.05	0.04	0.02	0.01
将来性	0.28	0.28	0.25	0.18	0.14	0.08	0.06	0.06	0.05	0.02

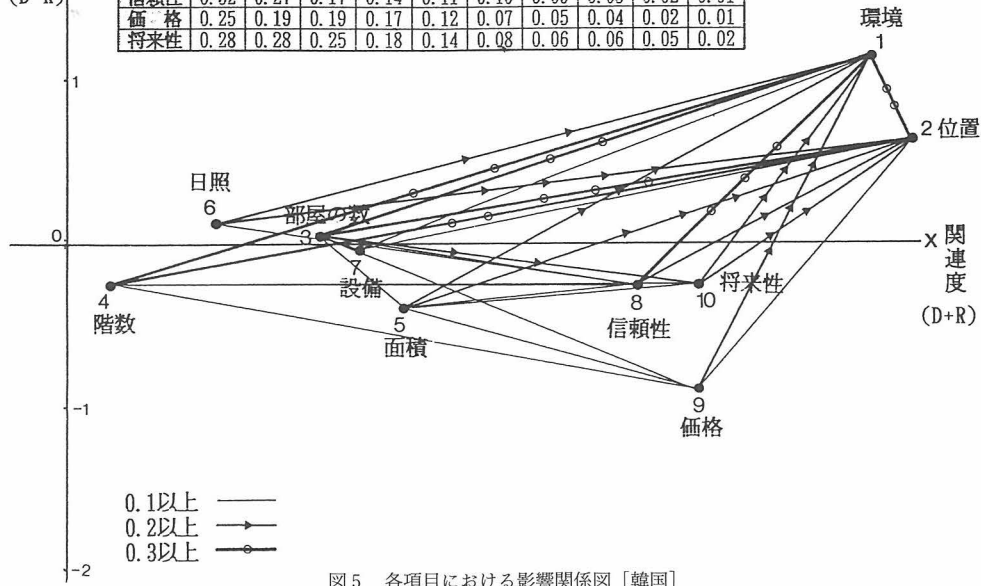


図5 各項目における影響関係図 [韓国]

表3 各項目における直接影響と間接影響の総和行列の手順 [日本]

項目	環境	位置	部屋数	階数	面積	日照	設備	信頼性	価格	将来性
環境	0.54	0.39	0.34	0.32	0.30	0.24	0.18	0.13	0.12	0.02
位置	0.51	0.38	0.38	0.34	0.24	0.23	0.22	0.13	0.07	0.06
部屋数	0.35	0.29	0.25	0.14	0.14	0.13	0.12	0.06	0.05	0.01
階数	0.06	0.03	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0	0
面積	0.37	0.23	0.21	0.16	0.16	0.12	0.12	0.06	0.05	0.01
日照	0.17	0.16	0.12	0.11	0.08	0.08	0.06	0.05	0.02	0.01
設備	0.28	0.20	0.17	0.10	0.10	0.09	0.09	0.06	0.04	0.01
信頼性	0.13	0.09	0.07	0.05	0.04	0.03	0.03	0.02	0.01	0.01
価格	0.42	0.37	0.34	0.34	0.33	0.31	0.18	0.15	0.13	0.02
将来性	0.10	0.09	0.09	0.07	0.04	0.03	0.03	0.02	0.01	0

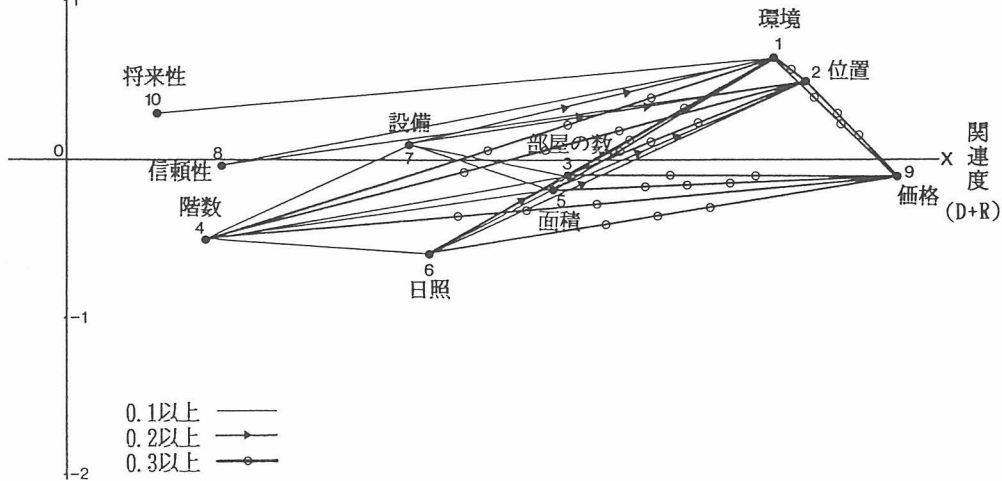


図6 各項目における影響関係 [日本]

とくに [韓・洋風] または [和・洋風] の住居空間の構成を望んでいることがわかる図8に示している。

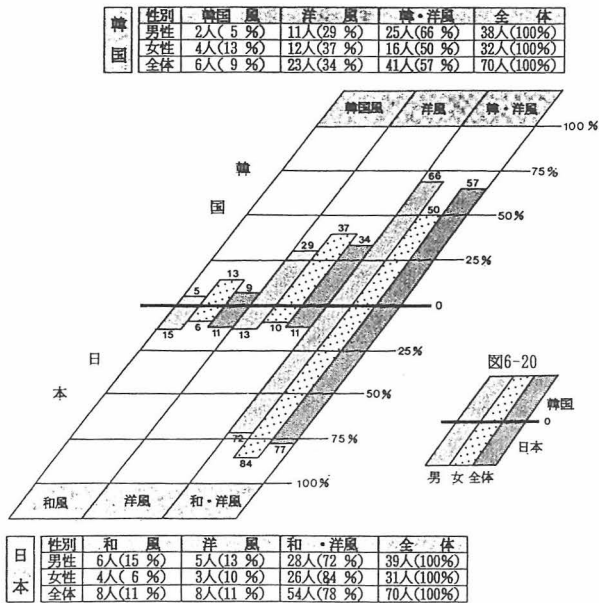


図8 韓国と日本の都市型集合住宅の住居空間の構成

韓国の場合は、[韓・洋風]の方が[韓国風]あるいは[洋風]より非常に多い(男性;66%、女性;50%)ことがわかる。日本の場合にも、[和・洋風]の方が、[和風]あるいは[洋風]より非常に多い(男性;72%、女性;84%)。[和風][韓国風][洋風]などの居住様式には、[洋風]の「イス座様式」と[和風][韓国風]の「ユカ座様式」の2種類がある。ここで分析に用いる語句の説明を「イス座」とは椅子に座った行為を中心とする生活であり、ユカ座とは床面に座った行為を中心とする生活である。しかし、それは単に姿勢の問題ではなく、椅子、テーブル、ベッドなどの大型の固定された洋風家具に依拠した生活を「イス座様式」と呼ぶ。また、畳面(床面)に直接座り、座布団、座机、ふとんなど小型の可動できる和風家具を中心とした生活を「ユカ座様式」と呼ぶ。

一般にイス座は行動的であり移動に便利であるが、ユカ座のほうが静止している場合、イス座より多様で自由な姿勢がとれるのである。両国とも、[洋風]の「イス座様式」と、[韓国風][和風]の特徴を生かした「韓国風、和風」の好みのリバイバルが生じていることが見い出される。

韓国と日本の男女別居住空間の中で、被験者が重要視

する項目を比較すると、韓国の男性は、都市型集合住宅の居住空間に対して、まず機能的・活動的な雰囲気を重要し、次にモダンな感覚と個性的な雰囲気、第3に伝統的な雰囲気を重視する傾向がみられる。女性はまず、モダンな感覚と個性的な雰囲気、次に機能的・活動的な雰囲気、第3に落ち着いた安定感を重視する傾向が見られる。

一方、日本の男性は、落ち着いた安定感、次にゆったりとした間取り、第3にモダンな感覚と個性的な雰囲気を重視し、女性はまずおちついた安定感、次に家具の配置、第3に、団らんな場所を重視する傾向を示した。

これは、同一文化内と異文化には民族や集団がもつ価値観、信念及び態度などに類似点と相異点がみられることを意味している。すなわち、同一民族や集団で構成されている文化内の男女はほぼ同様の価値観をもっていることが分かる。この傾向は本研究の結果にも顕著であり、国別の項目や順位は大きく異なった。韓国と日本における男女別傾向は順位の差は大きく異なりながらも上げられた項目は同様である。

このような現象は文化内コミュニケーションではAとBの文化の間に共通点が多く、異文化間コミュニケーションではAとBの文化の共通点が少ないことに起因するものである。

### III-6. 都市型集合住宅の居住環境に対する要求度

都市型集合住宅における被験者の居住環境及び住居空間などについての要求度及び意識を調べた。まず各要求項目を両国の男女別に分けて調べ、次に各項目の答え(非常に要求、やや要求、とちらとも言えない、あまり要求ではない。全く要求ではない)の評価得点として因子分析を行った。次は、韓国と日本における都市型集合住宅の要求項目を男女別に調べ、その結果をまとめたものである。都市型集合住宅の住環境に対する要求項目は、韓国の場合、男女共に、交通の便(男性;0.58、女性;0.78)、日常の買物などの便利さ(男性;0.24、女性;0.53)、防犯の現況(男性;0.26、女性;0.53)を上げていることが分かる。一方、日本の場合は、男性が買物などの便利さ(0.51)を、女性が家賃(0.84)に対する要求度が高いことが分かる。緑地や施設などの(男性;0.28、女性;0.16)や近所とのつきあい(男性;0.38、女性;0.58)は男女共に共通している。

次に、都市型集合住宅の住環境への要求度について、問題意識を説明できるように潜在的な共通要素を発見するために因子分析を行った。

因子分析(factor analysis)は、多数の変数をもつ情報を、より少ない次元で説明しようとする方法である。



問題変数として11項目を選定した。とくに「共通因子 common factor」と呼ばれる全変数に共通する少数の因子と、各変数に固有の因子である「独自因子 unique factor」を仮定し、各変数がそれら共通因子と独自因子の和に分解されるモデルを考えた。各変数の共通因子負荷量の2乗の合計は、その変数の「共通性 communality」と呼ばれ、その変数が共通因子によりどの程度説明できるかを示している(田中 豊他、1983)。調査データに関する一般的問題はお互いに共通の要素をもち、どのような異なる問題要素をもっているかを分析することであり、高い因子負荷量をもつ変数群によって解析したものが因子構造である。韓国の因子分析の結果表4と図9は、因子負荷量の2乗和は、第5因子までで、第5因子負荷量の2乗和は0.4868である。第5までの累積寄与率は44.4419%である。バリマックス回転を行い、5つの共通因子が抽出された。

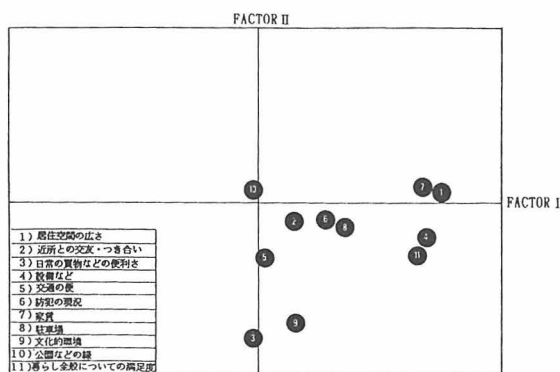


図9 因子負荷量のプロット図 [韓国]

- 第1因子：居住空間の広さ、家賃、暮らし全般についての要求度
- 第2因子：買い物の便利さ、文化的環境
- 第3因子：交通の便、防犯
- 第4因子：近所とのつきあい、駐車場
- 第5因子：公園などの緑である。

日本の因子分析の結果(表5)と(図10)は、因子負荷量の2乗和は、第6因子までで、第6因子負荷量の2乗和は0.2658である。第6までの累積寄与率は45.1704である。

- 第1因子：設備、居住空間の広さ、暮らし全般についての要求度

- 第2因子：家賃、文化的環境
- 第3因子：駐車場、買い物の便利さ
- 第4因子：交通の便、防犯
- 第5因子：公園などの緑
- 第6因子：近所とのつきあいが抽出された。

図11と図12は、韓国と日本における因子得点によるサンプルの分布図を示したものである。韓国における被験者のグループA～Dは以下のように布置された。グループAは「文化重視派」、グループBは「活動重視派」、グループCは「経済重視派」、グループDは「快適重視派」となった。以上より、都市型集合住宅の住環境へのメンタルモデル(Mental Model)として「文化志向型」「活動志向型」「経済志向型」「快適志向型」の4つのグループが抽出された。

日本における被験者のグループA～Eは以上のように布置された。グループAは「経済重視派」、グループBは「安定重視派」、グループCは「快適重視派」、グループDは「文化重視派」、グループEは「活動重視派」となった。以上より、メンタルモデル(Mental Model)として「経済志向型」「安全志向型」「快適志向型」「文化志向型」「活動志向型」の5つのグループが抽出された。

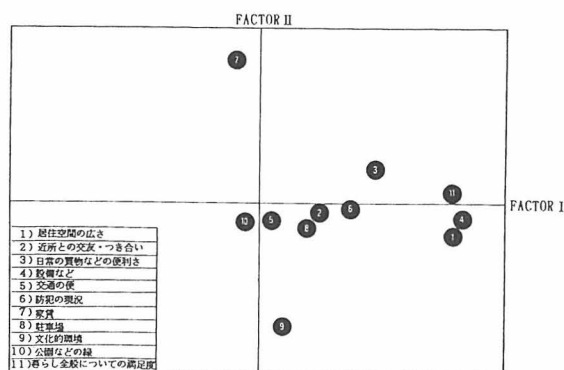


図10 因子負荷量のプロット図 [日本]

### III-7 都市型集合住宅の諸設備の可変性

この項目は、被験者が都市型集合住宅における、居住空間の設備についての意識を調べたものである。各項目に5段階の答え(非常にそう思う。ややそう思う。どちらとも言えない。あまりそう思わない。全くそう思わない)の評価方法で収集し、それを評価としてデータ化した。

例 項目	得 点
非常にそう思う	+ 2
ややそう思う	+ 1
どちらとも言えない	0
あまりそう思わない	- 1
全くそう思わない	- 2

作ろうとしていることをよく反映したと思われる

#### IV. 結 論

本研究は、韓国と日本における都市型集合住宅の居住様式（住まい方）を住意識の面から比較考察することによって、両国の住居様式（住まい方）の住意識、価値観を明らかにした。人々の都市型集合住宅に対する住意識、価値観に対してアンケート調査〔調査票は、直接配布回収し、期間は、いずれも60日間で、韓国（ソウル）で70名、日本（東京、つくば）で70名、合計 140名〕を対象とした。その結果を統計解析（単純集計、デマテル分析及び因子分析）によって思考評価した。主な結果は次のようである。都市型集合住宅に対する価値観を見ると、韓国では居住環境、位置、将来性などが重視されているが、日本では価格、位置、住居環境が重視されている傾向がある。

都市型集合住宅に対するイメージを調べると、韓国では暮らしの便利さ、安心感、現代的の順に上がっているのに対して、日本は現代的、暮らしの便利さ、安心感の順になっている。特に、広さに対するイメージは、両国で大きく異なり、韓国では都市型集合住宅は広い、日本

次は、この結果をまとめて都市型集合住宅の住環境諸設備の可変性を表したものである。韓国の1位は、使用者と建設会社が相談して諸設備を設置する（平均 1.40）、2位は、間取り、設備などが初めから設置されている（平均 -0.07）、3位は初めから使用者が設備などを自由に計画するという順になる。日本の場合は、韓国と同じように1位に使用者と建設会社が相談して諸設備を設置する（平均 0.73）、2位は間取り、設備などが初めから設置されている（平均 0.16）、3位は初めから使用者が設備などを自由に計画する（平均 0.36）という順になる。このように都市型集合住宅における諸設備について使用者と建設会社が相談して設置することを両国の被験者が最優先に考えることは、都市型集合住宅の住居空間の構成を画一的ではなく可変性を生かし多様化した住居空間を

表4 韓国の住環境への要求度の因子分析（因子負荷量）

[韓国]

因子分析：回転後の因子負荷量（直交回転）バリマックス法								
変 数 名	平均値	標準偏差	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4	因子 5	因子 6
(1)居住空間の広さ	-0.114	1.545	0.67775	0.0409	0.0967	0.1900	-0.1849	-0.0952
(7)家賃	0.043	1.303	0.6256	0.0797	-0.1194	-0.0035	0.2601	-0.0573
(4)設備など	-0.014	1.347	0.6158	-0.1602	0.1944	0.0988	-0.1020	0.2031
(11)暮らし全般についての満足度	0.071	1.163	0.5839	-0.2659	0.1767	0.0458	0.2189	0.0657
(3)日常の買物などの便利さ	0.371	1.289	-0.0108	-0.6994	0.0943	0.0266	-0.1356	0.1489
(9)文化的環境	-0.157	1.305	0.1390	-0.6257	0.1769	0.1061	0.1433	-0.1893
(5)交通の便	0.671	1.349	0.0187	-0.2784	0.6073	-0.0338	-0.0578	-0.0233
(6)防犯の現況	0.386	1.060	0.2481	-0.0805	0.5734	-0.0601	0.0149	0.0110
(2)近所との交友・つき合い	-0.114	1.153	0.1320	-0.0905	-0.0120	0.6013	0.0866	-0.0515
(8)駐車場	-0.086	1.360	0.3298	-0.1112	-0.1893	0.4433	0.0945	0.2525
(10)公園などの緑	-0.143	1.515	-0.0139	0.0723	-0.0450	0.1938	0.5173	-0.0060
因子負荷量 2 乗和			1.7783	1.0949	0.8684	0.6603	0.4868	0.1830
寄 与 率 (%)			16.1665	9.9532	7.8941	6.0027	4.4253	1.6637
累 積 寄 与 率 (%)			16.1665	26.1197	34.0139	40.0166	44.4419	46.1056

表5 日本の住環境への要求度の因子分析（因子負荷量）

[日本]

因子分析：回転後の因子負荷量（直交回転）バリマックス法								
変 数 名	平均値	標準偏差	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4	因子 5	因子 6
(4)設備など	-0.807	1.290	0.7358	-0.1283	0.0782	-0.0788	0.0046	-0.1222
(2)居住空間の広さ	-0.579	1.675	0.7299	-0.1620	0.0357	-0.0248	-0.1693	0.1800
(11)暮らし全般についての満足度	0.246	1.097	0.7190	0.0435	0.1325	-0.0256	0.1637	0.0639
(7)家賃	0.684	1.391	-0.0922	0.7447	0.1328	0.0467	0.0854	0.0313
(9)文化的環境	-0.474	1.272	0.0884	-0.6602	0.2321	-0.0207	0.2381	0.0834
(8)駐車場	-0.035	1.414	0.1672	-0.1329	0.5358	0.0581	0.0262	-0.0153
(3)日常の買物などの便利さ	0.088	1.367	0.4244	0.1765	0.4759	-0.2129	0.0710	0.0536
(5)交通の便	-0.053	1.419	0.0292	-0.1208	0.0991	-0.5300	0.0108	-0.0576
(6)防犯の現況	-0.246	1.274	0.3286	-0.0400	-0.0601	-0.4481	0.0302	0.0674
(10)公園などの緑	1.123	1.171	-0.0406	-0.1134	0.0555	-0.0282	0.5380	0.0801
(2)近所との交友・つき合い	0.526	1.201	0.2180	-0.0649	0.0306	0.0260	0.1648	0.4349
因子負荷量 2 乗和			1.9735	1.1170	0.6275	0.5420	0.4429	0.2658
寄 与 率 (%)			17.9410	10.1550	5.7045	4.9269	4.0262	2.4168
累 積 寄 与 率 (%)			17.9410	28.0960	33.8005	38.7274	42.7536	45.1704

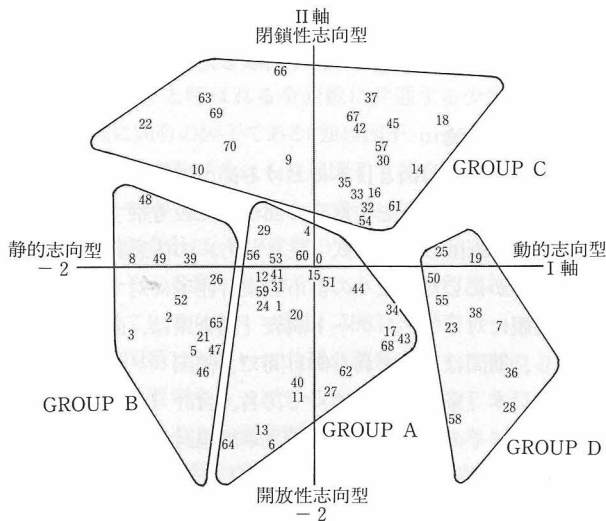


図11 因子得点によるサンプルの分布図 [韓国]

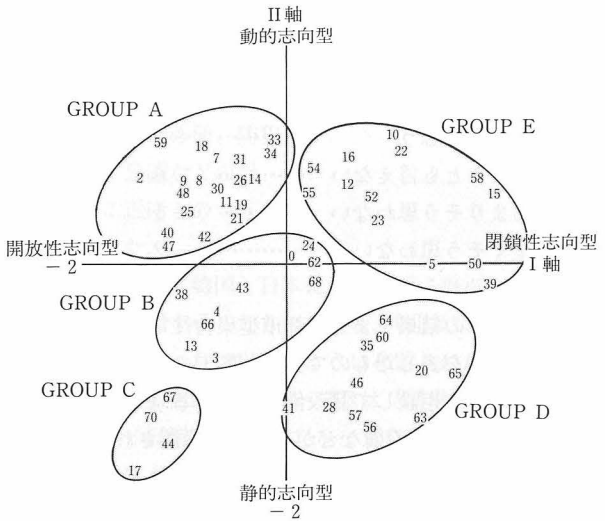


図12 因子得点によるサンプルの分布図 [日本]

では狭いと感じている。

都市型集合住宅の住居空間の中で重要視する要素を調べると、韓国では応接室、キッチンとお風呂が、日本では収納、採光、お風呂が挙げられている、韓国の1位に、応接室が挙げられているのは韓国人のお客様を大事にするという事と、他人に良く見せるという意識を反映していると考えられる。

住居空間（住まい方）の構成の好みをみると、両国ともに「韓・洋風」、「和・洋風」のほうが「純韓風」、「純和風」、「純洋風」より非常に大きい。洋風化した都市型集合住宅の住居空間で「和風・韓風の好みのリバイバル」が生じていることがわかる。

都市型集合住宅の住環境に対する要求度をみると、韓国の場合は男女ともに交通の便、日常の買物などの利便さ、防犯が挙げられている。日本の場合は男性が日常の買物などの利便さに、女性が家賃に対する要求度が高いことがわかる。公園などの緑地や施設などと近所との付き合いは男女共に共通している。

この要求度に対する因子分析によって、韓国では「文化志向型」、「活動志向型」、「経済志向型」、「快適志向型」の4つのメンタルモデルに、日本では「経済志向型」、「安定志向型」、「快適志向型」、「文化志向型」、「活動志向型」の5つのメンタルモデルに分けられる。

都市型集合住宅の住環境設備の可変性を調べると、両国ともに使用者と建設会社が相談して諸設備を設置することを望んでいることがわかる。すなわち、被験者は画一的ではなく、可変的な多様化した都市型集合住宅の住居空間の構成を作り出すことを考えていることがわかる。

### 参考文献

秋岡芳夫 著、住—日本人のくらし、玉川大学出版会、1977  
 東 孝光 著、日本人の建築空間、彰国社、1981  
 太田博太郎 著、日本住宅史の研究、日本建築史論集II、岩波書店、1984  
 神田 駿 著、集合住宅の再発見、相模書房、1990  
 佐藤 滋 著、集合住宅団地の変遷、鹿島出版会、1989  
 杉本尚次 編、日本の住まいの源流、文化出版局、1984  
 鈴木成文 著、住まいの計画、住まいの文化、彰国社、1988  
 清田育男 著、都市型集合住宅、井上書院、1987  
 高橋浩一郎著、気候と人間、日本放送出版協会、1986  
 田中豊 他著、多変量統計解釈法、現代数学社 1983  
 日本建築学会編、集合住宅計画研究史、日本建築学会 1989  
 水島恵一 編、イメージの人間学、誠信書房、1989  
 柳井晴夫他著、多変量解釈法、朝倉書店、1977  
 渡辺雄光 編、新・住居学、ミネルヴァ書房、1989  
 金 光鉉 著、韓国の住宅—土地に刻まれた住居、丸善1991  
 金 正基 著、韓民族の住居、建築文化、1982  
 申 栄勲 著、韓国の住まい、悦話堂、1986  
 李 杜弦 著、住生活、韓国民俗学概説、民衆書館、1974  
 張 保雄 著、佐々木史郎訳、韓国の民家、古今書院、1988  
 朱 南哲 著、野村孝文訳、韓国の伝統的住宅、九州大学出版会 1981  
 SEOUL METROPOLITAN GOVERNMENT(1989)  
 COMPARATIVE STATISTICS OF MAJOR CITIES、  
 THE APARTMENT OF KOREA、韓国住宅事業協会、1991  
 注；論文「都市型集合住宅の住居空間について韓国と日本の比較考察」の第六章の一部を再考察し、加筆したものである。

## A Comparative Study on the Consciousness of Residential Style in Apartment Houses between Korea and Japan

ABSTRACT

Jung Sook Park

This study was undertaken to elucidate the consciousness of residential style in apartment houses in Korea and Japan.

Statistical analyses (dematrel analysis) and factor analysis were used based on data for questionnaire. The questionnaire was carried from the middle of July to the middle of September. The objectives are 140 persons (Japanese, 70 persons; Korean, 70 persons).

The results are as follows:

- 1) The consciousnesses of residential style in apartment houses are different from Korea and Japan. Japanese selected the price of apartment house as the highest priority factor, while Korean selected the residential environment as the highest factor. Next priority factors are location and prospect of apartment house both in Korea and Japan.
- 2) Concerning to the imagination of apartment house, the elements of modern and convenience are superior to another elements in Japan. However, the elements of convenience and safety are superior to another elements in Korea.
- 3) Concerning to the claims of residential environment, Japanese men selected the convenience of shopping, Japanese women selected the rent. On the other hand, Korean men and women selected conveniences of traffic and shopping. Five mental models are classified in Japan about the claims of residential environment according to the statistical analysis (factor analysis), i.e., economical oriented type, safe oriented type, pleasant oriented type, cultural oriented type, and actual oriented type. On the other hand, four mental models are classified in Korea, i.e., economical oriented type, pleasant oriented type, cultural oriented type, and actual oriented type.
- 4) Concerning to the variability of equipment of apartment house, Korean and Japanese hope to establish equipments under the consult with users and constructors.

(1994年1月17日受理)